

## 5. 福岡市内河川におけるタミフルおよびその代謝物の実態調査

環境科学課 小原 浩史・宗 かよこ  
平野 真悟・中牟田 啓子

第46回日本水環境学会年会

近年、環境中における医薬品やパーソナルケア用品（PPCPs）の存在に関心が高まっている。特にタミフル（Oseltamivir phosphate 以下 OP）は冬になると流行するインフルエンザの治療薬として用いられ、その国内使用量は他国に比べ非常に多い。

プロドラッグである OP は服用後、約 8 割が活性体（Oseltamivir carboxylate:以下 OC）へ代謝され生理活性をもつが、吸収効率が悪いいため体内には微量しか吸収せず、大部分が尿などから排出される。また、OP や OC は比較的親水性が高く、一般的な下水処理施設が採用している活性汚泥法等の生物処理では除去されにくいといわれているため、河川等水環境中に放出される。そこで、福岡市内を流れる河川について OP および OC の実態調査を行った。